

競技規則 2019/2020、2020/2021 の主な改正点について

名古屋市ユース（U-14）サッカー選手権大会 2020 において注意いただきたい競技規則の改正点を本年度の総会資料の内容に追加しました。競技規則とともに読みいただき、大会の円滑な運営にご協力ください。

1. 選手として

○コイントス【第8条】《19/20》

- ・ トスに勝ったチームは、前半攻撃するゴールかキックオフを選ぶことができる。

○守備側ペナルティエリア内のフリーキック・ゴールキック【第13条】【第15条】《19/20》

- ・ 守備側チームのペナルティエリア内のフリーキックやゴールキックが行われるとき、守備側チームはペナルティエリア内でパスを受けることができる。
- ・ 攻撃側のチームはキックで再開されるまでペナルティエリア外かつ 9.15m以上離れなければならないが、キックされた後はペナルティエリア内のボールに触れることができる。

○フリーキック時の壁について【第14条】《19/20》

- ・ フリーキック時に守備側の”壁”が3人以上で作られた場合、すべての攻撃側の選手は壁から1m以上離れなければならない。（1m以内に侵入してプレーが再開したら相手の間接 FK となる。）

○ドロップボールについて【第9条】【第8条】

- ・ ボールが主審や副審に当たって、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、それにより新たな攻撃が始まった場合、ドロップボールとする。《19/20》
- ・ 最後にボールに触れたチームの1人にドロップされる。《19/20》
- ・ ペナルティエリア内からの再開はすべて GKにドロップされる。《19/20》
- ・ 両チームのすべての選手はドロップの位置から4m以上離れなければならない。《19/20》
- ・ 規定の距離を離れない競技者は警告される。《20/21》

○交代時のピッチを退く位置【第3条】《19/20》

- ・ 交代で退く選手は、基本的に境界線の最も近い位置からフィールドを出なければならない。

2. 審判として

○ハンドの解釈について【第12条】

[反則になる] 《19/20》

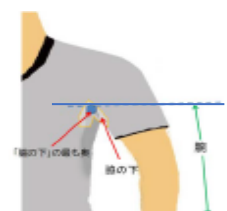
- ・ 偶発的であっても得点や得点のチャンス、自チームボールになるなど利益を得る場合
- ・ 意図がなくても手や腕が肩の高さから上にあったり、手や腕を広げて不自然に体を大きく見せたりすることによってボールが当たった場合

[反則にならない] 《19/20》

- ・ 頭や体や近くにいる選手に当たって跳ね返って触れた場合
- ・ 倒れたときに体を支えている手や腕に触れた場合
- ・ 手や腕が体の近くにあり、不自然でない位置にあって触れた場合

[補足] 《20/21》

- ・ ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は脇の下の最も奥の位置までのところとする。



OGK が手または腕でボールを扱うことについて【第12条】《19/20》

- ・ GK が味方からのスローインや意図的にキックされたパスを処理しようとして失敗した場合（例えばキックし損ねたときなど）、その後ボールを手で扱っても反則とならない。

○間接フリーキックのシグナル【第13条】《19/20》

- ・ 主審は、間接フリーキックが行われた後、直接得点につながらないことが明らかになった場合、キック後に誰かが触れる前にシグナル（まっすぐに上げた手）を下すことができる。

○ペナルティキックについて【第14条】

[GK の位置]《19/20》

- ・ ペナルティキック時、GK は少なくとも片足をゴールラインに置いていなければならない。ラインの後方にいることはできない。（GK がゴールポストやクロスバー、ゴールネットに触れているときにキックは行われぬ。）

[警告・退場などの懲戒措置について]《20/21》

- ・ 試合中に選手に示された警告は、KFPM (Kicks from the penalty mark) に繰り越されない。試合中、KFPM の両方で警告となった場合、2つの警告が示されたと記録されるが、退場にはならない。

[ペナルティキックの結果について]

2019/2020

2020/2021

	ゴール	ノーゴール		ゴール	ノーゴール
攻撃側競技者による侵入	ペナルティキックを再び行う	間接フリーキック	攻撃側競技者による侵入	ペナルティキックを再び行う	間接フリーキック
守備側競技者による侵入	ゴール	ペナルティキックを再び行う	守備側競技者による侵入	ゴール	ペナルティキックを再び行う
			守備側競技者および攻撃側競技者による侵入	ペナルティキックを再び行う	ペナルティキックを再び行う
ゴールキーパーによる反則	ゴール	ペナルティキックを再び行う+ ゴールキーパーに警告 ゴールキーパーの飛び出しがキッカーに影響を与えず、キッカーのミスでゴールを外す、またはゴールポスト等にボールを当て、得点とならなかったならば、それは反則としない(通達)	ゴールキーパーによる反則	ゴール	セーブされない:(キッカーが影響を受けていない限り)ペナルティキックを再び行われぬ セーブされない:(キッカーが影響を受けている)ペナルティキックが再び行われる セーブされる:ペナルティキックを再び行い、ゴールキーパーに注意、以降の反則には警告
ボールが後方にけられた	間接フリーキック	間接フリーキック	ボールが後方にけられた	間接フリーキック	間接フリーキック
不正なフェイント	間接フリーキック+キッカーに警告	間接フリーキック+キッカーに警告	不正なフェイント	間接フリーキック+キッカーに警告	間接フリーキック+キッカーに警告
特定されていないキッカー	間接フリーキック+特定されていないキッカーに警告	間接フリーキック+特定されていないキッカーに警告	特定されていないキッカー	間接フリーキック+特定されていないキッカーに警告	間接フリーキック+特定されていないキッカーに警告
ゴールキーパーおよびキッカーが同時に反則	間接フリーキック+キッカーに警告	ペナルティキックを再び行う+キッカーとゴールキーパーに警告	ゴールキーパーおよびキッカーが同時に反則	間接フリーキック+キッカーに警告	間接フリーキック+キッカーに警告

3. 監督・コーチとして

○チーム役員に対しての懲戒罰（警告・退場の処置）【第5条】【第12条】《19/20》

- ・ 不正行為を犯した役員にイエローカード、レッドカードを示すことができる。
- ・ 不正行為を犯した役員が特定できない場合、より上位のチーム役員（多くの場合は監督）に懲戒罰が与えられる。
- ・ チーム役員への注意、懲戒罰の対象となる反則がリストアップされている（第12条）。

他にも改正点があります。競技規則を参考にしてください。